

書写山圓教寺藏『如意輪講式』解題と翻刻

柴 佳世乃

ここに翻刻紹介するのは、書写山圓教寺藏の『如意輪講式』である。圓教寺は、兵庫県姫路市にある、性空上人（九一〇～一〇〇七）開山の寺で、西の比叡山とも呼ばれる古刹である。

本講式は、澄憲（一一二六～一二〇三）の手に成る七段の『如意輪講式』^①の諸本の一つであり、これまで知られることのなかったものである。この七段式の『如意輪講式』は、唱導で名高い安居院澄憲が、奥州平泉の藤原秀衡母の求めに応じて作成したものといい、澄憲が書写山に二七日（十四日間）籠って作られたと伝えられる。書写山にその伝本が存していることは、この作品の成立伝来を考える上で、極めて重要である。^②管見に入った限りでは書写山圓教寺には二本が現存し、うち一本は、書写山の長吏にもなった実祐の書写本である。ここに翻刻するのは、この実祐本である。書写山伝来本には、「澄憲作」との明示はなく、一方、他本には見られぬ書写山ならではの文言が中途に数行分加筆されている。性空上人が手ずから彫ったという生木の如意輪観音を本尊とする書写山において、伝来・勤修の過程で付されたと考えられる。

そうした資料的価値に鑑み、これを翻刻紹介するものである。

*

講式とは、仏菩薩・明王・天・神祇諸尊・祖師先徳などの徳を讃歎した式文を唱える仏教儀礼である。式文は漢文を訓み下した文章で、經典や経疏などを多く引用しつつ、流麗な文体で練り上げられている。特有の曲節を伴った、唱えて美しい式文と伽陀は、聴く者に経文の内容や功德を印象づける。講式の讃歎する対象は様々あるが、如意輪講式は、如意輪観音を讃えた講式である。

この七段式『如意輪講式』は、大覚寺蔵本、高野山金剛三昧院蔵本の存在が知られている。鎌倉時代の写本と見られる大覚寺蔵本には、奥書に次のようにある。

本に云く、陸奥秀衡の母の請に依り、延暦寺澄憲僧都の作る所なり。或る人の云く、秀衡の母、年来この如意輪観音を恭敬供養す。この式をいかがして書かせんと思ふところに、澄憲僧都をこれ聞て、金一馬を贖勞としてこれを誂ふ。その時、澄憲、書寫山に籠り、二七日の間、精誠を致してこれを書くと言々。(原漢文)

すなわち、如意輪観音への信仰厚かった秀衡母が、澄憲に白羽の矢を立て、如意輪講式の述作を依頼したところ、澄憲は播磨の書写山圓教寺に籠もって式文を書いたという。また、高野山金剛三昧院蔵『如意輪講式』(鎌倉中期写本)の奥書にも、「陸奥秀衡の母の請に依り、延暦寺澄憲法印の作る所なり」(原漢文)とあり、同様に澄憲が秀衡母の依頼によって作ったことを伝える。成立にまつわるたいへん興味深い伝承であり、いくつかの点から、「伝承」とのみ切り捨てることはできないと考えている。本講式全体については別稿を用意しているのでそれに譲るが、他ならぬ書写山圓教寺に伝えられている事実が重要である。

ここでは、この書写山伝来本の特徴を中心に述べる。書写山には、現在確認した限りでは本七段式が二本遺さ

れている。一本はここに翻刻する実祐本、もう一本は奥書の無いもので（中世末ないし近世初期の書写と思われる）、両者は、一部表記が異なるところがある他は、ほぼ同文である。実祐本には朱の合点や音訓の符号が付されておき、実唱された可能性を思わせるが、もう一本にはそれが無い。

書写山本と大覚寺本との異同をかいつまんで述べれば、全体として多少の字句の異なりがあるが、本文内容に關わつて異なるところはほとんどない。ただ一箇所、意味内容が異なる異同がある。第六「如意福德門」の冒頭に述べられる次の一条である。

於焉、幸福尤可願之。貧賤誰不厭之。

是以、菩薩六度闕檀度之濟行、止觀五緣失衣食之助道矣。

（実祐本228〜230行目）

この「闕檀度之濟行」「失衣食之助道」の部分は、他本（大覚寺本・高野山金剛三昧院本に共通。以下の引用は大覚寺本）には、「闕檀度之濟行」「先衣食之助道」（当該部分全体は「是以、菩薩六度闕檀度之濟行、止觀五緣先衣食之助道矣」とある。前後の文脈からすれば、菩薩の六度（六波羅蜜）をうたう部分で、それぞれ「闕く」「先とす」とするのがふさわしい。文字形が似ているので、書写山本は「闕す」「失す」と誤つたものか。

さらに、書写山本には、独自に数行分の文章が加えられている。第七「往生極樂門」の冒頭部分に見える以下の一節である。

就中、至^ニ當寺^ノ觀音^ニ者、巧匠未^タ加^ヘレ切^ラ、天人既^ニ來^テ作^スレ礼^ヲ。當^ニ知^ル生木^ノ紅桜^即是^ニ生身^ノ金容^{ナリト云}事^ヲ。へ其讚歎^ノ偈^ニ云、へ稽首生木如意輪、能滿有情福壽願、亦滿往生極樂願、百千俱胝心所念^{ト云々}。

これは書写山本独自の本文で、他本には見られない。³⁾「当寺」すなわち書写山圓教寺の如意輪觀音像が、性空上人が天人の告げによって感得した、生木の桜樹から成る像であることを記したものである。第五「宿縁厚故門」にも性空上人への言及があり(実祐本200〔202行目〕)、この部分は諸本に共通している。書写山本は、第五段、第七段にわたって当寺とのゆかりを示すのである。当該の文言がいつ誰によって付加されたかは明らかでないが、伝来・勤修の過程で加えられたことを想像させる。

さて、書写者の実祐⁴⁾(一五〇五～一五九一)について述べる。実祐は、第百六世長吏になった人物で、『円教寺長吏記』に以下の記載がある。

第百六世 長吏実祐 十妙院

积^シ実祐^シ黎^コ幼童^コノ一、落髮^{シテ}受^ニ於^テ戒^ヲ台宗^ニ一、住^ニ持^テ東谷十妙院^ニ一、恒^ニ遊^ニ顯密之法席^一、理明^ニ欲^ニ如^クレ法行^セト^一、詣^ニ山門^ニ一、仰^ニ豪盛僧正之智風^ヲ一、吾^カ宗^ノ法門粗伝^レ是^ヲ、写山之智龍^ニシテ、嘉名高^ク驚^シニ天聽^ヲ一、万流之法虎^ニシテ、徳風遠^ク達^スニ叡聞^ニ一。賜^テ尊貴^ノ高官^ヲ一、任^スニ権僧正^ニ一。累徳^ノ所感遇^フニ延齡^ノ寿^ニ一。天正戊子載六月廿日^ニ領^ニ長吏職^ヲ一(持職四年)。造次顛沛^ニ令法久住之志切^ニシテ、至^{マテ}或法則等^ニ一成^{シテ}辛苦^ヲ書^シレ之、胎^ニ澆世^ニ一。或時為^メ唱^ニ未來^ニ八相^ヲ一、与物結縁^ヲ於^テ觀音堂前^一、施^ニ行^ス往還^ノ人^ニ一。譚^ニ云^ク、此^ノ人弥陀^ノ名号^ニ得^レ妙^ヲ、書^レニ焉^ス不^スレ如^ナニ心^ニ思^カ一、取^テ入^ニ暈^下ニ一、名号燦然^トシテ、燃上^ス也。此^レ是^レ古老^之口実。果^{シテ}臨^レ終^ニ、八十七^ニシテ卒然^トシテ而示^スレ寂^ヲ矣。

天正十六年(一五八八)から四年間長吏をつとめた人物として知られ、「顯密兼学、音曲無双之能読」の長吏

豪盛（第八十九世）の学風を仰ぎ慕って学僧として名を成したことがわかる。三代前の長吏、百三世快円の条にも実祐の名は見え、活躍の程が知られる。

また実祐は、『赤松記』、『円教寺長実祐筆記』（実祐が天正十七年（一五八九）、八十五歳で著した書。圓教寺蔵、『兵庫県史』史料編中世四などに翻刻）や『書写山十地坊過去帳』（実祐住坊だった十地坊が在世中に十妙院となった際に著された書。『実祐筆記』と同様、天正十七年の成立。同じく『兵庫県史』に翻刻）等を残している。実祐が長吏になる以前、天正六年（一五七八）に、書写山は秀吉の襲撃に会い、その混乱で多くの文物を失った。本講式書写奥書にも「一乱の時、これを取り散らし訖んぬ」とある。近世の快倫による『円教寺古今略記』「乱後灌頂再興之事」の条にも、天正十年（一五八二）の灌頂の再興の主要人物として挙げられ、その功績が称えられている。本講式書写をも含め、貴重な文物が失われるのを恐れて、筆写に努めたことがうかがわれる。『長吏記』に「造次顛沛に、法久住せしめんの志切にして、或ひは法則等に至るまで辛苦を成してこれを書し、澆世に胎す」と記される通りである。本講式書写奥書の末尾に付された実祐自身の事績や感懐（328～338行目）は、実祐の伝記として貴重な一資料となろう。

本講式は、天正七年（一五七九）に如意輪堂參籠中に法華経の料紙裏に頓写したものを、後年、天正十五年（一五八七）八十三歳の折に再び写したものである。作者として「澄憲」の名は見えないが、伝承されてきた成立周辺事情を記している点がまた興味深い。

此御作者又其御願主事、慥^三幼年之時（実祐、雖聞師伝[□]_令□^令廢忘訖。或御女院寄^三莫太之用途 御懇望之時、以累月之思惟作進献之云々。

（316～318行目）

と、女人成仏に関わって「賢聖」の懇望によって作られたこと、自分は幼少の頃に伝来の詳細を聞いたのだが年を取って忘れてしまったこと、確かそれは、ある女院が莫大な費用を寄せて懇望された時、長く思惟の末に作成されたものであること、などが記されている。さらに、

誠是、諸式之中ニ無比類ニ之文体也。本尊之御内證、感応行者求願、速成就之也。難有之信心勇発云々。

(325～326行目)

と、本講式が「比類無き」素晴らしい文体で綴られていることへの言及もある。澄憲の名こそ見えないが、書写山での伝来享受のされ方がうかがえよう。

なお、書写山圓教寺には、この七段式の他、五段式の『如意輪講式』が写本として伝わっている。『寺院所有物明細帳』^⑤(明治三十四年(一九〇二)に天台座主に提出した寺院財産目録)に記載されている「一、如意輪講式 一巻／山門阿弥陀坊行宗ノ撰ニテ、生木ノ元由、利益感応等ヲ五段ニ述作シテ、毎月十八日本尊前ニ於テ之ヲ読ムナリ」は、この五段式であろう。書写山における如意輪講式勤修の実態については、あらためて考えてみたい。

注

(1) 佐々木邦世「よみがえる「信の風光」―秀衡の母請託『如意輪講式』を読む―」(中尊寺仏教文化研究所『論集』創刊号、一九九七年五月)に先駆的な研究がなされている。佐々木論文では、大覚寺本が紹介され、翻刻・訓読されている。ニールス・グリユベルクによるWEBサイト「講式データベース」にも本講式は載せられており、学恩に与った。

*本講式の資料的価値や成立を重んじ、中尊寺にて「如意輪講式奉修委員会」が組織され、平成二十八年（二〇一六）六月二十六日に「平泉世界遺産登録五周年記念法要 如意輪講式」が中尊寺本堂で営まれた。柴も委員として加わり、式文訓読と譜本作成の過程を担った。

(2) 柴佳世乃「澄憲作『如意輪講式』について」（中尊寺「如意輪講式」法要パンフレット、二〇一六年六月）に概要を述べた。

(3) ただ「讚歎の偈」四句については、大覚寺本の裏書にも記されている（第七門の式文に加えられているような体裁ではない）。

(4) 実祐については、『兵庫県史』史料編中世四の『円教寺長吏実祐筆記』『書写山十地坊過去帳』の解題に略歴が載るほか、『播磨六箇寺の研究Ⅱ―書写山円教寺の歴史文化遺産（二）―』（大手前大学史学研究所研究報告第一四号、二〇一五年三月）に所載する書写山円教寺所蔵文書の解題にも略歴が紹介されている（小林基伸執筆）。

(5) 前掲『播磨六箇寺の研究Ⅱ』に所載。

謝辞

貴重な資料の閲覧と紹介をご許可下さった圓教寺大樹孝啓師ならびに大樹玄承師に、厚く御礼申し上げます。

付記 本稿は、科学研究費補助金（基盤研究（C）課題番号25370206）による研究成果の一部である。

【書誌】

卷子本一卷。法量、縦二十九・二糎。全長九九三・五糎。天正十五年（一五八七）、実祐の書写。

表紙、薄緑色、幅十九・五糎。見返し、金銀箔散らし。軸有り（木製、直径一・六糎）。

書写山圓教寺蔵『如意輪講式』解題と翻刻

外題「如意輪講式（実祐権僧正／文筆也）」（題箋）、内題「如意輪講式」。尾題「如意輪講式」。見返しに「宝曆九己卯七月修補之／十妙院藏」と墨書。

料紙第一紙の端（表紙接合部）に「南無阿弥陀息ノ仏ヲ伴ヒテ今日ノ泊リヲ極楽ノ宿」と墨書。合点有り（朱）。訓点・送り仮名有り。音読・訓読符有り（朱）。

〔参考〕書写山圓教寺藏七段式『如意輪講式』別本の書誌

卷子本一卷。法量、縦三〇・一糎。全長八五二・〇糎。

表紙無し。軸有り（金属製、直径一・二糎）。

内題「如意輪講式」。尾題「如意輪講式」。

奥書無し。合点無し。訓点・送り仮名有り。

翻刻は、次のような方針で行った。

- 一、漢字は通行の字体を用い、割り注は（ ）で括った。
- 一、行取りは底本に従った。
- 一、合点は、「へ」で示した。通常の合点の他、二重山で記される合点があり、区別するために、それを「へ」（太字）で示した。
- 一、音読・訓読符は、印刷の都合上、省略した。

一、虫損のため判読不能の字は□で示した。

一、読解の便宜のため、私に句読点を付した。

一、行頭に冒頭からの行数を示した。

【翻刻】

1 如意輪講式

へ先 へ惣礼

へ歸命蓮華王、大悲觀自在、大自在吉祥、能施有情願

南無歸命頂礼大慈大悲大聖如意輪觀自在菩薩へへ三遍へ

5 蓮華部中諸賢聖衆十方法界一切三宝

へ次へ導師へ着座へへ法用へ如常へ。へ次表白へ事由隨時可用之へ。

へ敬白法界法身仏宝(朱書) 摩訶毘盧遮那 へ実修

実證盧舍那界会 へ一代教主牟尼薄伽

九品能化弥陀種覺 十方法界證菩提者

10 去來現在応正等覺 へ八万十二権実聖教法宝(朱書)

無障碍経甚深妙典 観音勢至諸大僧宝(朱書)

菩薩迦葉阿難諸大声聞、^{ニハ}殊^{ニハ}

補陀落^ハ安養清淨集會、蓮華部中

諸賢聖衆、^ハ惣^{テハ}一心法界光明

15 心殿、理性隨緣塵刹海會、三寶境界驚

而^{シテ}言^ク、^ハ伏惟^{レハ}、^ハ人中天上之浮花^フ

開落、^{イクソノハクソノ}幾^ノ之春ノ風。^ハ苦海愛河之流水

沈浮、^{ヲホク}伎^ノ夕ノ浪。^ハ生々ニ々^{スト}々々^{セシ}々々^ハ、^ハ鉄床

火地ノ上、^ハ処々ニ々^{シト}々々^{セシ}々々^{トコロ}、^ハ刀山劔樹ノ下^{モト}。

20 善趣^{ニハ}難^ク生^シ、惡趣^{ニハ}易^キ歸^リ者也。

^{トシセキ}粵^ニ窳^{セキ}虚夢之中^{ニハ}、^{マレ}稀^ニ受^ケ

日域馬台之人身^ヲ、輪轉浮生之間^ニ、

償^ケ遇^リ月支鵝王之教跡^ニ。^ハ然^レニ^ハ歲月

消^シ傾^ク。^ハ孰^{カシ}期^シ二翌日之晷^ヲ。^{メイロ}冥路

25 稍^ヤ近^シ、須^ク蓄^フ二夜台之粮^ヲ。^ハ茲^以テ、

偏^ニ仰^キ二尊之汲引^ヲ、欲^フレ^テ禱^シ二二世之雍熙^ヲ。

^ハ夫十方聖衆之中^{ニハ}、^ハ觀自在ノ慈悲

惟^ハ深重^{ナリ}。^ハ六觀世音之内^{ニハ}、如意輪ノ利生

尤揭焉ナリ。繇ヨテ是ニ、今クハタテ、翅ニ二座七門之

30 講肆ヲ、早ク預シ二求ニ兩願ヲ滿足ニ。然レハ則

速ニ恣ニ鄭ニ白ニ陳ニ紅ニ之ノ景福ヲ、永ク保シ二黃牙ニ

白石之退算ヲ。加ニ以テ、眼前ニハ誇テ不老

不死之赤泉ニ、伴ニ椿葉之影ニ、身後ニハ

遊ニ來迎引接之紫台ニ、俟ニ荷花之敷ニ。

35 立ニ片言ヲ以テ至要ヲ、仍テ梗概之啓白ヲ。

懇篤之志不能ニ叢脞スルニ。具ナル旨在リ

仏陀之照覽ニ而已ニ。今レ此講演惣有七門。

一 觀音本源門、二 名号讚歎門、三 形声応化門、

四 本願利益門、五 宿縁厚故門、六 如意福德門、

40 七 往生極樂門ナリ。

一 第一觀音本源門者、夫此大聖觀自在

菩薩者、一切如來淨妙法身之体、三世諸仏

大悲法門之主也。四十一地、瓔珞露ヲ垂レテ、

無垢摩尼之珠離々タリ。四十二重ノ無明

45 雲晴テ、妙覺水精之月明々タリ。或結ニ

三覺ノ々果^ラ、致^ニ実報ノ華台^ニ、^{タチマデ}乍^ニ灌^テ三五

智々水^ラ、列^{ナル}ニ密嚴海会^ニ。〱尋^レハ、本誓證人^ラ

者、摩尼蓮花ノ両部。謂^ハニ本位ノ月輪^ヲ者、金剛

胎藏諸会^{ナリ}。〱然則^ハ四曼之春ノ園^{ニハ}、

50 法曼茶之華^{ハナアサヤカ}鮮^ニ、〱五智之秋ノ天^{ニハ}、妙觀察

智之月^{アキラカ}晰^{ナリ}。〱九尊蓮台^{ニハ}、安^シニ大悲之花葉^ニ、

〱六趣苦輪^{ニハ}、化^スニ上天之著樂^ヲ。〱十六大菩薩之

中^{ニハ}、弥陀親近之金剛法、〱三部曼陀羅之

間^{ニハ}、蓮花部院之如意輪^{ナリ}。〱或^ハ坐^シ三三十二

55 葉之蓮台^ニ、〱或^住スニ八輻千輻之金輪^ニ。

〱種子者、則三字、顯^スニ金剛宝蓮之三形^ヲ。

〱所持者、亦四種、表^スニ増^ハ息^ハ敬^ハ調之四実^ヲ、

法。論^レハ内證^ヲ者、〱五智五仏之本源。〱謂^ハハ

外用^ヲ者、是三十三身ノ能化^{ナリ}。〱爰^ヲ以^テ、三世ノ

60 諸仏之慈悲ノ水^ハ、皆入^リニ大聖如意輪之願海^ニ、

〱一切菩薩ノ智恵ノ光^{リハ}、悉^ク出^{タリ}自^レ持宝金剛覺

月^{ヨリ}。〱矧乎^ハ大悲闍提之本誓^ハ、猶^ヲ越^ニ一切

菩提薩埵之悲願^ニ、捨大慈悲之弘誓^ハ、

剋勝^{マサレリ}諸余ノ觀自在尊之本願^ニ。へ經^ニ曰、

65如意輪神咒^ト者、一切ノ凡夫、入^ニ如來地^ニ頓悟^ト

法門^{ナリ}。無量ノ衆生、頓證無上大菩提^ト故^ニ、

施^ニ与^{スル}一切ノ所求^ヲ無上寶藏^{ナリ}。早^ク滿^ス足^{スト}

所望悉地^ヲ云々。へ然則、此菩薩者功德

最勝最大^{ニテ}、利益無量無辺^{ナリ}。故^ニ我等偏^ニ

70歸依^敬此尊^ヲ、世々生々^ニ馮^{タノミ}其誓願^ヲ、

在々処々^ニ仰^{カシ}彼利益^ヲ。へ仍以^テ伽陀^ヲ、可^シ

讚歎禮拜^ス。へ頌曰、

へ一切如來大慈悲 皆集一体觀世音

極樂稱為無量壽 娑婆示現觀世音

75 南無歸命頂禮大慈大悲大聖如意輪觀自在菩薩〈三反〉

へ第二^ニ名号功德門者、先^ニハ惣^{シテ}述^ス觀世音ノ德行^ヲ、

今^ハ別^{シテ}明^ス其名号ノ差別^ヲ。へ夫此菩薩ノ密号^ト者

持宝金剛、へ梵号者振多摩尼、へ或名^{ケテ}大

梵深遠^ト、正^ク号^ス如意輪觀自在菩薩^ト。へ別^{シテ}

80 言^{ハレ}之^ヲ、^ハ如意^ト者、宝生三摩耶ノ摩尼珠、^ハ雨^ス

七珍百福ノ宝財^ヲ。諸仏無上福智宝印、

^ハ生^ス真如実相ノ珍宝^ヲ。^ハ又是自性本有之

阿字門、淨菩提心之明月珠也。^{ナリ}^ハ輪^ト者、仮

辟者、則轉輪聖王最上殊持之輪宝。

85 ^ハ論^ス実^ヲ者、亦無上世尊金剛堅固之

福輪也。^ハ然則、^ハ飛^{シテハ}ニ金剛輪^ヲ、摧^ニ破^シ怨

敵ノ四魔^ヲ、^ハ轉^{シテハ}ニ妙法輪^ヲ、断除^ス無始^ノ三毒^ヲ。

^ハ觀自在^ト者、遊^ニ普門方便^ニ、智恵入蓮花

三昧^ニ異名^{ナリ}。^ハ菩薩^ト者、發菩提心、利益

90 衆生^ノ称也。^ハ凡能所境智之觀相^シ、

事理冥顯之和合、^ハ名如意輪觀自在菩薩也。

^ハ受持^{スレハ}者、顯^シ靈驗於即時^ニ、称念^{スレハ}者、備^ニ福

利於現身^ニ。实^ニ知^ス。滅^ニ三毒七難^ヲ、滿^ニ二求

兩願^ヲ、偏^ニ無^シ過^{ルハ}觀世音ノ名号之功用^ニ。茲^ヲ以^テ

95 心水^ニ觀^{スレハ}ニ名字^ヲ、感応^ノ之月浮^レ影^ヲ、詞林^ニ

唱^{レハ}ニ尊号^ヲ、榮花之色開^ク藥^ヲ。^ハ名号ノ功德、

殊^ニ以^テレ不可思議^{ナルヲ}乎^ヤ。 〱仍^レ為^レ蒙^シカ^ニ如^レ此利益^ヲ、以

伽陀^ヲ、可^シ讚歎^{礼拝ス}。 〱頌曰、

〱衆生聞名者 永離三惡道 淨於三毒根 成仏道無疑

100 南無婦命頂礼大慈大悲大聖如意輪觀自在菩薩 〱三反

〱第三形声利益門^ト者、 〱前^ニハ明^シニ名号^ノ力用^ヲ。

次^ニ述^ニ体相^ノ功德^ヲ。 〱夫此^ノ菩薩^ト者、居^{シテ}彼三々

品^ニ、一生補処^ノ大士、 〱遊^フニ此五々有^ニ、六道能化^ノ

菩薩。 淨土穢土^ノ利益^ハ更^ニ不^レ癡。 善趣惡

105 趣^ノ濟度長^ク無^シ絶^ルト。 〱始^メ自^リニ仏界^ニ、終^至ルマテ^ニ那落^ニ、

現^{シテ}ニ一々色身^ヲ、濟度^ス之^ヲ。 〱上^自有^頂、下^及

無間^ニ、發^{シテ}二種々音声^ヲ、教^ニ化^之。 横^遍シ^ニ十方^ニ、

豎^亘テ^ニ三世^ニ、 〱無^クニ所^ト不^スト云^レ現^ニ無^ニ形^ト不^スト云^レ示^サ。 〱嗚呼、

感^應滅^々トシテ、 頌^ニ形^ニ於^ニ三十三^之月^ニ、 〱機縁

110 区々^ニシテ、 播^ニ声^ヲ於^ニ一十九^之風^ニ。 〱況^ヤ過去^ニハ

正法明、 〱現在^ニハ觀自在王尊、 〱未來^ニハ普

光功德山王仏ト。 〱爰^ニ知^ス。 唱^ニ正覺^ヲ於

三世^ニ、施^スニ応用^ヲ於^ニ十方^ニ。 〱即^チ首^ニ戴^ニ本仏^ヲ、

表^ニ妙觀察智之說法果徳^ヲ。〔其ノ身^ニ具^{シテ}六臂^ニ、

115 主^ト六^ニ大法身之即身成仏^ヲ。〕〔思惟ノ手^ニ者、表

大悲拔苦之徳^ヲ、〕〔躡^シ愍念有情之意^ヲ、廻^{シテ}方便

功智^ヲ、〕〔渡難度之衆生^ヲ之相也。〕〔宝珠ノ手者、

大慈与楽之相、財施満足之徳也。欲^レ得大福德者、

必可^レ念此ノ手^ヲ。〔念珠ノ手者、定恵相应之徳、以

120 恵ノ糸^ヲモテ、貫^ニ定珠^ヲ、〕〔瑩^ニ二百八三昧ノ明珠^ヲ、除^ニ八万

四千ノ癡暗^ヲ。常^ニ得^ニ安穩^ヲ、住^{スル}無畏^ニ相也。〕〔按山

手者、大定寂靜之徳、〕〔下化衆生之相也。住

真如ノ黄地^ニ、不^レ被^レ動^ニ八風^ニ。押^{シテ}法性之金山^ヲ、

不^レ被^レ傾^カ三毒^ニ。即^チ得^ニ長遠壽命^ヲ、〕〔又備^ニ強

125 盛ノ色力、此手ノ用力也。〕〔蓮花手者、慈悲

同体之徳、〕〔法^ハ愛和合之相也。内證覺悟ノ心蓮花、

自性清淨ノ三摩耶也。〕〔念^レ之者、不染煩惱之□

濁^ニ。持^レ之者、能^ク淨^ム諸非法^ヲ。被^ニ衆人^ニ敬愛^ニ、

得^ル無[□]〔辨^カ〕弁説^ヲ相也。〕〔持輪ノ手者、如来

130 大智之輪宝、威怒降伏之金剛、遍照

牟尼之一字金輪、へ摧魔怨敵之三摩耶形也。

即チ転テハニ無上法輪ヲ一、令レ得ニ一切種智ヲ一、除キニ内外障難ヲ一、
令レ成ニ二世悉地ヲ一。念スルニ此手ヲ一者、ホシイマ、ニシ 縦ニ甘羅之榮祿ヲ一。

持此輪者、越テシニ句氏之昇進ニ一矣。広博六

135 臂之力、化スニ六道ノ生ヲ一、普現三昧之形、度ニ三有、カタチ

海ヲ一。況所ハレ坐スル者、上求菩提ノ山岳、万行万

善成レ林ヲ。所湛者、下化衆生ノ池水、大慈大

悲ノ浪潔シ。へ凡厥ノ相好莊嚴、併ラ為ナリ衆生与願ノ

也。へ仍諸衆以伽陀、可ニ讚歎礼拝ス。へ頌曰、

140 へ六臂広博体 能遊於六道 以大悲方便 断諸有情苦

南無婦命頂礼大慈大悲大聖如意輪觀自在菩薩(へ三反)

へ第四へ本願利益門者、へ前ニハ明ニシツニ形声ノ応用ヲ、

へ次ニ明ニ本誓ノ慈悲ヲ一。へ夫此菩薩ト者、侍ニ多ツカヘテ

千億仏ニ一、発ニ大清浄ノ願ヲ一、垂憐愍方便ヲ一、施スニ

145 降化ノ神力ヲ一。慈悲之雲眇々トシテ、普ク澍ニ甘

露之法雨ヲ一。弘誓之海漫々トシテ、広浮フ濟度之船筏一。

無縁之慈悲広大ニシテ、無クレ親無シレ疎モ。無作誓願

甚深ニシテ、無ク始モ無シ終リモ。ヘ本願ニ云ク、一切ノ衆生ヲ作シレ仏ニ

畢後、我当ニ成仏ス。若シ残サハ一人モ一者、誓^{チカツテ}

150 不^{シト}取^レ正覚ヲ云々。ヘ又如シハレ経云フカ、若シ持^ニ念スル如意輪ヲ一者ハ、

一切ノ時処ニ皆無ク有ルコトニ障碍、於ニ内外行業ニ、速ニ

円^ニ滿シ諸ノ所作事ヲ、ヘ常ニ得^ユ勝利ヲ、威光増長シテ、

具大自在ヲ、開^ニ発智恵ヲ、得弁才ヲ、語言三昧之

音声微妙ニシテ、過現ノ一切罪障無ク不^レ滅、現当ノ

155 一切吉祥無^シ不^ト云コト至^ラ云々。ヘ凡誓願利益無量ナリ。

以^レ要^ヲ言^レ之、三業六情之罪垢、智水洗而^テ

不^レ留。四重五逆之業塵、悲風払而無

残^ルコト。ヘ況ヤ十魔四魔ノ々軍^ヲ遽^ニ控^キ、百病万

病之氣ヲ一慙^ク。ヘ又離雷風水火之難ヲ、

160 又無シ刀疾餓賊之怖。兵戈戰陣之中、得ニ

勝利ヲ、諍論訴訟之处、顯^ニ名譽ヲ。満ニ

壽命於千歳ニ、招^キ敬愛於万人ニ、才智湛^ヘ

北海ニ、巧弁流^{ナカス}懸河ヲ。ヘ加之、疋夫^{ヒツフ}昇^リ三

台^ニ、專^シ觀^キ天之礼ヲ、傭女^{ソナヘテ}備^ニ六宮^ニ、繼懷

165 日之夢^ヲ。へ就中、觀音ハ是レ慈悲ノ本、女人ハ

則慈悲之質也。へ故ニ和光垂迹之形^ヲ、多クハ現ス^ニ

婦女ノ身^ヲ。利生感応之道、殊ニ滿ニ女人願^ニ。何

況ヤ、雖決定業ナリト^テ、念スレハ能ク転スレ^レ之^ヲ。雖墮^レスト^ニ惡道^ニ、

必ス代^テ受^クレ^ル苦^ヲ。へ然則、振^テ二十力折伏之威^ヲ、

170 □^ニ獄率^ヲ、^{ククキ}摧^ニ刀山^ヲ、施ス^ニ子慈悲之德^ヲ、代^テ罪人^ニ

入鉄城^ニ者也。へ經ニ云ク、若シ誦^レハ^ニ如意輪神呪一遍^ヲ

如^ク上^リ、諸事皆^ニ悉得^ニ成弁^スルコト^ヲ云々。へ又云、假令

仏眼墮^レ落^シテ大地^ニ、無量億劫^ニモ^レ還^ニ本処^ニ、大

悲ノ誓願不^レ墮^セ^ニ両舌^ニ。へ又、若シ有^テ衆生^ニ、於^テ未來世^ニ、

175 誦持^シ此ノ呪^ヲ者、以^ニ本願^ヲ故、我來^テ其前^ニ、随^テ

所望^ノ意^ニ、令^レ滿^ニ一切ノ無量ノ大願^ニ。若ハ少、若ハ多、不

果^{タシ}遂^シ其^ノ悉地^ヲ者、不^レ得^レ名^ヲ為^ニ如意宝珠ノ大秘密^ニ云々。

へ如是、誓願不思議甚深^ニシテ、無量廣大也。へ金言不^レ誤、

利生無疑^ヒ。へ仍大衆以^ニ伽陀^ヲ可^シ讚歎^ス礼拝^ス。へ頌曰、

180 へ若我誓願大悲中 一人不成二世願

我墮虚妄罪過中 不還本覺捨大悲

南無婦命頂礼大慈大悲大聖如意輪觀世音菩薩〈三反〉

〱第五宿縁厚故門ト者、〱前ニハ明シツニ大悲本誓ノ甚深ナルコトヲ一、

〱今展ニ此界ノ衆生ノ機縁相応スルコトヲ一。〱此菩薩ハ、娑婆

185有縁ノ薩埵、利生無雙ノ大士也。〱寔ニ此ノ土之衆生ハ、

〱於彼尊ニ繫属結縁尤深厚ナルヲヤ。〱夫以、

胡馬嘶ニ塞北之風ニ一、〱尚有リ下恋ルニ故郷ヲ一之声上。

觀音掉シテ願海之船ニ一、何ソ無シ下度ニ旧親ヲ一之情上。

是以、一生補処之今、雖トモ在ニ安養ニ一而得ニ法身ヲ一、

190四弘誓願之昔、猶ヲ於、テ忍界ニ一而結ニ僧那ヲ一。然レハ則、

娑婆者桑梓之地ナリ。故ニ遍ク覆フニ功德林之蔭ニ一。

〱我等ハ葭葦ノ友也。〱仍生ニ長ス大悲水之流ヨリ一。

〱況本朝大日本国者、偏ニ於ニ如意輪ニ一、而感

応是溥者也。所以者何ナレハ、〱百済国ノ七積ノ靈像、

195送テ而安シニ極楽ノ東門之閣ニ一。〱上宮王ノ七生、

本尊ヲ、留テ而置ニ雍州北京之室ニ一。〱聖武

皇帝ハ、排ニ弘殿於南都ニ一、和シテ泥土ヲ一、造ルニ如意輪ヲ一。

〱良弁僧正得ニ沙金於東土ニ一、尋ニ石山ヲ一、

祈^リキ持^シ宝^ク金^剛ニ。ハ弘^ク法^ヲ大^師者、第^ニ地^ノ菩^薩、

200 肋^ニ彫^ル刻^シ之^ノ功^ヲ、踰^リシ形^ヲ像^ヲ於^テ摩^訶尼^ノ峯^ニ。ハ性^ノ空^ノ聖^ノ人^者、

六^ノ根^ヲ淨^クノ行^フ者、依^テ天^ノ人^ノ之^ノ告^ヲ、刻^シ生^ノ木^ヲ於^テ書^ク、

山^ニ。ハ爰^ニ知^ス、觀^ル世^ノ音^ノ者、娑^婆ニ縁^ニ深^ク、ハ日^ノ域^ニ

契^リ厚^ク。ハ何^ニ況^ニ、釈^迦如^來以^テ閻^浮提^ノ諸^ノ衆^ノ生^ヲ、

併^ラ付^テ屬^ス此^ノ菩^薩ニ。尤^可レ仰^ニ其^ノ利^ノ益^ヲ。ハ經^ニ云^ク、

205 爾^時、世^尊告^テ如^意輪^觀自^在菩^薩ニ言^ク、以^テ此^ノ

一^切衆^生、付^テ屬^ス於^テ汝^ニ、勿^レ以^テ有^レ過^ト、而^チ便^チ棄^捨スルコトニ云^ク。

ハ加^シ之^ヲ、當^テ末^ノ法^ノ末^ノ世^ノ之^ノ比^ニ、於^テ下^ノ愚^ノ下^ノ劣^ノ之^ノ輩^ニ、

偏^ニ可^レ憑^ニ此^ノ尊^ヲ。ハ所^謂ル^ル經^ニ云^ク、ハ若^シ善^ノ男^子

善^ノ女^人、於^テ末^ノ來^ノ世^ノ中^ニ、誦^シ持^シ如^意輪^明呪^ヲ一^時、

210 不^レ隔^テ淨^ト與^テ穢^ト、不^レ扱^ニ日^ノ月^ノ星^ノ辰^ノ吉^ノ凶^ヲ、

別^シテ不^レ修^シ齋^戒。ハ亦^ク不^レ飯^ニ洗^シ浴^ス及^テ以^テ淨^ノ衣^ヲ不^レ

可^シ一^日二^日斷^シ食^ヲ。ハ亦^ク無^ク作^シ辛^ノ苦^ノ之^ノ行^ヲ、

不^レ須^ク下^ニ嚴^シ淨^シ壇^場一^ハ及^テ種^々ノ尊^重ノ作^法ヲ。但^シ

着^シテ常^ノ衣^服一、若^シ誦^ススレハ三^一遍^ヲ、如^ク上^ノノ諸^ノ事^悉

215 皆^テ遂^ケ意^ヲ、百^千種^ノ事^ノ一^切ノ所^願皆^悉円^滿スト云^ク。

へ誠憑哉。行儀心ニ我等ニ、利生契ニ末法ニ。持念
無ク煩、勤行有リ便リ。悉地惟レ易ク、感応不レ難故ニ、

忍界南浮大日本国末法下愚、七種ノ弟子ハ、偏ニ

仰ニ此尊ノ本誓ヲ、一切善願ヲ可シ満足ス。へ仍先以ニ

220 伽陀一、可シ讚歎礼拝ス。へ頌曰、

へ我等住於娑婆界 学修如来自他門

救度閻浮日本国 以此因縁礼仁者

南無婦命頂礼大慈大悲大聖如意輪觀自在菩薩へへ三反へ

へ第六ニ如意福德門ト者、へ前ニハ明ニ三機感相応シテ

225 施ニ福智ニ嚴ヲ、へ今且其ノ中ノ祈ニ福德之

利益ヲ。夫冀ニ樹提伽之勝躑一、開ニ福田ヲ於

即生ニ、伝ニ迦羅越之妙指ヲ、招ニ宝財於現身ニ。

へ於焉、幸福ハ尤可願レ之。貧賤誰レカ不レ厭レ之。

へ是以、菩薩ノ六度ニハ闕ニ檀度之濟行ヲ、止觀ノ五緣

230 失スニ衣食之助道一矣。へ出テハマホツテカタクヲ、イタクキヲトシスル

輩ニ一之 恥上、へ入テハ屈シテ膝、悲レ無下顧ニ親屬ヲ之

力ヲ上。へ況ヤ富者、隨テ縁ニ自然ニ殖ニ善根ヲ、貧者、

觸^{シテ}事不慮犯^ス罪根^ヲ。へ故^ニ或^ハ說^{ケリ}閻浮提^ノ衆生

多由^テ貧^ニ、墮^{スト}中惡道^ニ。へ又^ハ演^下諸苦^ノ中^ニハ以

235 貧苦^ヲ為^{スト}中第一^ノ苦^ト云々。へ因^レ茲、早^ク祈^リ福德^{之一}門^ヲ、

欲^レ成^{セント}大願^ヲ於^二世^ニ。へ然^ル今、此菩薩^者象^{カトツテ}

宝部摩尼門^ヲ、持^{シテ}如意宝珠^ノ玉^ヲ、衆生^ニ与^ヘ

財福^ヲ、行者^ノ滿^{ミツ}諸願^ヲ矣。へ經^ニ云^ク、若^シ於^二此土^ノ中^ニ、

欲^フ求^{ント}現報^ヲ諸惡業^薄福^ノ衆生[、]充^ニ滿^{セン}世

240 出世間^ノ無上^ノ果報^{一切}所望^ヲ云々。如^ク儀軌^ニ云^カ、誰^{カレ}

有^ル薄福^ノ者[、]へ当^ニ滿^ス一切願^ヲ云々。へ准^ニ隨^ニ心^ニ如意輪經^ニ云[、]

是^レ能^ク雨^ニ無量^ノ財宝^ヲ如意宝珠^也。速^ニ得^ル世間^ノ

一切財^ヲ故^ト云々。へ又^云、我速^ニ令^レ得^セ美妙七宝^ノ衣服

飲食及妻子眷属車乘城邑^{滿足}云々。へ然^レハ則[、]

245 於^二此如意輪^ニ、聞^キ名^ヲ、懸^テ憑^ヲ、作^ニ一花^{一香}善^ヲ

之^彙、摸^{シテ}形^ヲ、凝^{シテ}信^ヲ、運^ニ一称^{一礼}功^ノ之^族、へ窮^ニ

王家^ノ之^懷富^ヲ、縱^ニ輪王^{数万}之^{福利}、へ豊^ニ人臣^之資

貯^ヲ、預^{ラシ}居士^{至德}之^良財^ニ。へ加^レ之[、]生^ニ福德^智惠^ヲ

之^男、耀^ニ榮^暉於^二九重^ニ、賜^テ端正^衆相^之女^ヲ、施^ニ

250 敬愛^ヲ於^リ一^ニ朝^ニ。茲^ヲ以^テ、^{ホコツテ}矜^ニ季^ノ綸^ノ之^ニ福^ノ庭^ニ、^{カザリ}飾^ニ錦

障^ル於^リ五^ノ十^ノ里^ノ之^ニ地^ニ、遊^テ須^カ達^カ之^ニ財^ノ苑^ニ、披^シ華^ノ堂^ヲ於^リ四

十^ノ余^ノ之^ニ院^ニ。へ然^レ則^レ、六^ノ度^ノ四^ノ接^者、始^メ自^リ初^ノ門^ニ、滿^ニ足^シ之^ヲ、

百^ノ福^ノ万^ノ德^者、^{イタルマデ}迄^ニ于^リ極^位ニ、円^ノ滿^シ之^ヲ。へ仍^レ各^ノ以^テ伽^陀、

可^シ讚^歎礼^拜。へ頌^曰、

255 へ摩^尼蓮^華部 多^ク人^ノ所^レ敬^愛

此^レ即^チ如^意輪 能^ク成^ス諸^ノ事^業

南^無歸^命頂^禮大^慈大^悲大^聖如^意輪^觀自^在菩^薩〈三反〉

へ第七^ニ往^シ生^極樂^門者、へ前^ニ既^ニ明^シツ今^ノ生^ノ所^レ求^ラ。今^当ニ

願^フ来^セ世^ノ出^離。へ如^ク經^ニ云^ク、非^ス但^レ現^世得^ル福^ノ利^ニ、亦^レ於^リ

260 当^レ生^ニ獲^ト大^功德^ニ云^々。へ就^レ中^ニ、至^テ当^ノ寺^ノ觀^音者、

巧^匠未^タ加^ヘ切^ヲ、天^人既^ニ来^テ作^スレ^ル礼^ヲ。当^レ知^ル生^木

紅^桜即^チ是^レ生^身ノ金^容ナリト云^フ。へ其^ノ讚^歎偈^ニ云^ク、へ稽^首

生^木如^意輪、能^ク滿^ス有^情福^壽願、亦^レ滿^ス往^生極^樂願、

百^千俱^胝心^所念^ト云^々。へ夫^以ハ、名^利生^死之^ノ絆^ヲ、結^フ三^途ノ鉄^網。

265 道^心菩^提ノ翔^ル、翔^ル九^品之^ニ金^台。不^レ可^レ不^シハ^ルレ^ル歎^カ。可^シ悲^ム何^為。

へ然^ル我^等着^{シテ}妖^艷之^ニ色^ノ声^ニ、盛^{ナル}齡^稍闌[、]婪^ニ

邪慢之名利^ラ、余命愈^{イヨクセマル}疾^ヲ。譬^タ身^ニ於^リ少水之泡沫^ニ、

浮生難^ク壅^ト、寄^ス心於^ニ郊原之薤隴^ニ、露命易^シ

消^ス。雖^レ後^ニ、雖^レ前^ニ、冥途^ハ可^キ行^ク之路^{ナリ}。雖^レ淹^レ

270 雖^レ速^{トシト}、生死^ハ必^ズ不^レ疚^ト之^ハ疆^{カヒ}也。悲哉[、]被^テ拘^ル少^ク

緣^ニ、乍^レ思徒^ニ送^ル星霜^ヲ、迷哉[、]稀^ケ求^{シテ}世間^ニ、乍^ラ

空^{シキ}々々^{シク}運^{ヘリ}年月^ヲ。實^ニ可^レ厭^ル者[、]三界六道之栖^也。

不^レ厭^ル惡趣^ニ易^シ歸^ス故^ニ。尤^ク可^レ欣^ズ者[、]九品十樂之台^也。

不^レ仰^ル淨土^ニ、難^シ生^シ故^也。然^ニ今^ニ此^ニ菩薩^ハ、為^{シテ}船師^ノ

275 大船師^ト、渡^シ中^ニ有^之迷津^ヲ、為^{シテ}導師^ノ大導師^ト、送^ル西方^ノ

之覺岸^ニ矣。安養^ニ号^ス弥陀^ト、設^テ行願莊嚴^之

淨土^ヲ、娑婆^ニ現^{シテ}觀音^ト、迎^フ欣求極樂之衆生^ヲ。是以[、]

十念成就之終^ニ、捧^テ蓮台^ヲ而接取[、]九品往生之始^ニ、

轉^{シテ}法輪^ニ而教化^ス。何況[、]無障礙經^ニ、説^{キテ}捨^テ此身^ヲ後

280 則生^{スト}西方^ニ、金輪呪經^ニ、演^テ命終^{シテ}往生^{スト}極樂世界^ニ。

我等^ニ有^リ往生極樂之願[、]觀音^ニ在^リ引接西方之盟^一。

我所^ノ發^ル願望^已叶^{ヘリ}、彼所立之本誓^ニ。往生淨土

有^ニ疑^カ哉。然^レ則[、]荷^テ詣^テ黃金瑠璃之庭上^ニ、瞻^ニ

觀音紫磨之聖容^ラ、へ忝^ク跪^{ヒサマツイテ}ニ赤梅檀之樹下^ニ、拜^シニ弥陀

285 白毫之妙相^ラ、へ聞^テニ一実^ニ道^ヲ、断^シニ三重^ノ無明^ヲ、終^ニへ開^テ

仏知見^ヲ、入^シニ菩薩^ノ正位^ニ。へ出離生死大願、已満足^シス。

世々生々ノ大幸、何事^カ如^シレ之哉。へ仍各住^{シテ}ニ決定^生

生之願^ニ、可^シ讀^ニ歎^ニ礼^ヲ拜^ス弥陀觀音^ヲ。へ頌曰、

へ若人恒念大士名 当得往生極樂願

290 面見如来無量寿 聽聞妙法證無生

へ願我臨欲命終時 二云々

南無歸命頂礼大慈大悲大聖如意輪觀自在菩薩 (三反)

へ抑我等帰^シニ如意輪^ニ、へ仰^クニ本誓^ヲニ故、預^ニ慈悲利

生方便^ニ、遂^ニ往生極樂^ノ蓄懷^ヲ、へ拔濟堪^レ力^ニ、昇

295 進得^リレ便^ヲ。へ因^レ茲、往^テニ十方^ノ淨刹^ニ、施^ニ供^ニ聞法^之

榮耀^ヲ、還^テニ六趣^ノ穢土^ニ、垂^レニ引^ニ接^ニ結緣^之之利生^ヲ、

発^シニ一子^之之慈悲^ヲ、へ救^{ヒテ}ニ五道^之之含識^ヲ、唱^シニ八相^之

成道^ヲ。へ又如意輪經^ニ云、破^{シテ}ニ無上阿鼻地獄^ヲ、其中^ノ

一切苦惱^ノ衆生悉^ク得^ニ解脱^{スルコトヲ}、即往^ニ生^{スト}極樂世界^ニ云々。

300 へ寔^ニ惡道^之之拔濟^{尤有}レ憑矣。へ如^ク經^ニ云^カ、始^メ自今日

へ乃至成仏^シ、不^レ墮^ニ惡趣^ニ、常^ニ生^ニ於^レ佛前^ニ云々。

へ憑哉。依^テ此^ノ講演結縁^ノ力^ニ、自^ニ今日^ニ永^不墮^ニ

惡趣^ニ。是^レ實^ニ折^ニ之中^ノ亦折^{ナリ}。釐^ニ之中^ノ猶

釐也。へ然^ハ、則^テへ殊^ニ以^ニ今日^ノ所修香華讚歎

305 善根^ヲ、惣^{シテ}今生^ノ所作事理自他^ノ衆善、近^ハ

廻^ニ施^シ極樂界之花池^ニ、順次往生之蓮開^レ靨。

遠流^ニ入^レ薩般若之願海^ニ、頓證菩提之月

浮^レ影^ヲ。へ仍大衆依^ニ此願^ニ、以^テ伽陀^ヲ可^レ讚歎^ル

拜^ス。へ頌曰、

310 へ願以此功德 云々

南無婦命頂礼大慈大悲大聖如意輪觀自在菩薩へへ三反へ
へ命終決定往生極樂自他法界平等利益

如意輪講式

へ凡此式者、女人成仏之事対賢聖而懇望之時、被作与之云々。

315 殊者書写山婦^ニ生木尊^ニ之故也。

此御作者又其御願主事、慥^ニ幼年之時へへ美柘へへ雖聞師伝^ヲ

書写山圓教寺藏「如意輪講式」解題と翻刻

令廢忘訖。或御女院寄_二莫太之用途_一御懇望之時、以累月之思惟作進獻之云々。

320 此式之事、先師快祐法印対慈雲法眼_一被書写之本（一卷）、又春湖居士書之本（一卷）、已上二本、雖秘藏之、一乱之時、取散之訖。仍去

天正七年（己卯）初冬、堂舎結界為清淨安全、某実祐、如意輪堂

參籠中、頓書之。但料紙難求得之故、妙經八卷之裏_二書之_一。

隔意滅而不分明也。仍重而同十五年（丁亥）二月時正中日、白地書之処也。

325 誠是、諸式之中_二無比類_一之文体也。本尊之御内證、感応行者求願、速成就之也。難有之信心勇發云々。

於十地坊北窓 法印実祐（八十三）書之。

私云、善光寺一光三尊之板令感得之、数年対数人_一

以摺写令施与之故、依其結縁、不凶、旧冬従京都

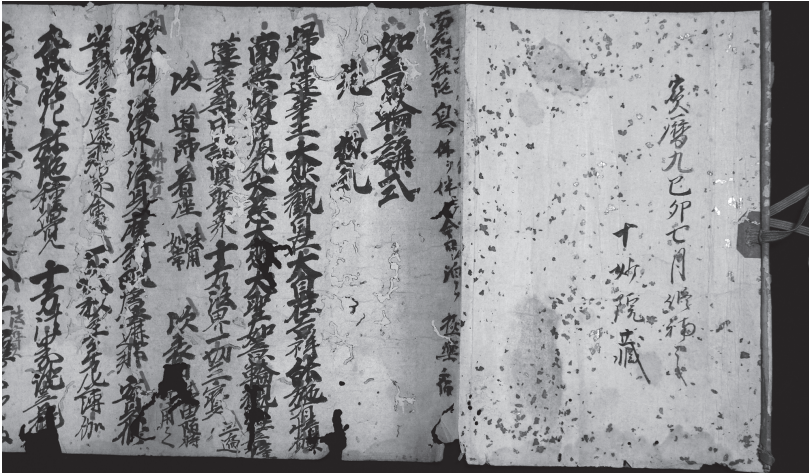
330 被成下 繪旨上人号実祐拜受仕者也。為恐々々。

然処、翌年（天正十五之秋、行年八十三）、極老衰廢之故、道心勇發、趣_二行脚之道_一

明石之浪棹而口号 塵身ヲ風ニ任テ浪枕浮世ノ夢ヲ見果テヌル哉

漸ク返リ来ル衆還シ下ニ、立別レ浪路隔ツト彼岸ニ到ラハ早ク又モ遇ヒ見ン。

着大坂殿下亭^一、息女授^レ嘉名^二。仍至禁裏^三、北御政所依由状^ニ、得
335 御馳走^一。被^レ任極籠権僧正^ニ、遂^ル參内^一之処也。洛中洛外靈仏靈社
遂參籠、善光寺一光三尊之板摺写^シ之、名号書加之^ヲ、施与法界^ニ、
幾千万人乎。既達叡間^ニ、梶井二品親王被成^ニ令旨^一、重而本書進上之。
准后様女御其外悉及結縁、得御褒美^ヲ処也。今於如意輪堂一七日籠勤中、実祐書之。



『如意輪講式』表紙見返し・冒頭



『如意輪講式』冒頭

願以此因緣
由是功德無量
自願以此功德
如意輪講式

凡此式之文
發傳于時
與世之靈
將被其
發之靈
所其未學
此所作之
今者
此式
卷末

『如意輪講式』卷末

書写山圓教寺藏『如意輪講式』解題と翻刻